

TSUJINAKA HOSPITAL

Clover

辻仲病院柏の葉・広報誌

2024.10月号 vol.44

特集 ～緩和ケア～

患者に寄り添い、それぞれの苦しみを和らげる
「苦痛」と「心」を緩和 ～その人らしい暮らしを守る～



[連載コラム]

侍プロ.com

健康料理レシピ

茄子としめじのトマト味噌炒め



患者に寄り添い、それぞれの苦しみを和らげる

緩和ケア 「苦痛」と「心」を緩和 ～その人らしい暮らしを守る～

緩和ケアとは、がんなどの病気で悩みを抱えている患者さん一人ひとりが最期までその人らしく過ごすことができるよう行う治療・症状緩和のことです。

患者さんご本人によるケアとは異なり、プロフェッショナルな緩和ケアが行われます。

がんによる痛み、吐き気、息苦しさなどのさまざまな身体的症状などは、痛み止めなどの投薬で「苦痛」からの緩和。車いすでのお散歩など、身体的、精神的な苦痛を和らげていく「心」の緩和など、患者さんそれぞれに合わせて、身体的、精神的な苦痛を和らげていきます。患者さんだけでなく、ご家族の心理的、社会的な苦しみを和らげ、生活の質(QOL)の維持、向上を目指します。

患者さんが穏やかに過ごせるよう、ご家族も含めて支援していくことが大切な役割と考えています。

当院の緩和ケア病棟は、快適で清潔な居住スペースに加えて、看護師やソーシャルワーカー、栄養士など緩和ケアチームのスタッフが患者さん一人ひとりとそのご家族に寄り添

うケアを実践しています。また、同じ市内に国立がん研究センター東病院や、東京慈恵会医科大学附属柏病院などが存在するという、心強い理想的な立地を活かした医療連携を積極的に推進しています。

その人らしい暮らしを守るにはまず、ご自宅での療養が大切だと考えていますが、入院が必要であれば、私たちの緩和ケア病棟でお世話をし、入院後も、ご家族との交流を大切にしたいと考えています。

さらに、長期で入院されている方でもホッと息抜きができるよう、イベントや誕生日会などのお楽しみを看護師が企画し、実施、心のケアを重視しています。症状が安定し、ご本人やご家族が在宅療養に変更を希望される場合は、在宅療養に向けた最善の方法を策定し、ご準備のお手伝いをさせていただいています。当院緩和ケア外来への通院、もしくはお近くのクリニックでの訪問診療をご選択いただき、より良い緩和ケアを提供していきます。

入棟基準

- ◆ 悪性疾患である
- ◆ 患者が緩和ケア病棟入院を希望している
- ◆ 悪性疾患に由来する精神的または身体的症状がある

上記以外の方でも
ご相談ください。

緩和ケア病棟



24床ある病室はすべて個室となっております。
ご家族が宿泊できる控室もございます。

STEP

電話相談

在宅療養中・他院入院中
かかりつけの医療機関、もしくは入院先のソーシャルワーカーさんよりお電話ください。入院面談日のご予約をお取りいたします。ご家族からでも結構です。

STEP

受診予約

かかりつけ医からの情報提供書をご準備ください。

STEP

入院面談受診（完全予約制）

STEP

入院判定会議

医師、看護師などにより、お受け入れについて協議を行います。

STEP

入院日程の調整、待期

外来通院を希望される場合には、入院必要時に調整となります。

● 緩和ケア病棟ご入院

入院までの流れ

STEP

当院受診、入院

当院の他診療科におかかの方は、直接主治医にご相談ください。

担当者からのメッセージ

がんの治療中は、ご本人はもとより、ご家族など身近な人たちにとっても様々なつらい出来事にも多く出合うことかと思えます。今まで普通にできていたことが難しくなったり、日常生活が思うようにできなったり。

今まで築いてこられた人間関係までも崩れていくこともあります。それぞれの辛さを少しでも緩和できればと考え、日々患者さんとそのご家族に接しています。

ご家族との日常を続けることが生活の質向上の第一歩で、人との絆があることが「生きがい」にもつながっていきます。その「生きがい」を何よりも大切にしている当院は、コロナ禍でも細心の注意をもって、ご家族との面会条件を普段とほぼ変わらずに実施してきました。入院中は痛みや身体症状を和らげ、体力などを維持・改善し、ご

家族の元にお返しすることを目指しています。

また在宅療養中の方へは、通院が負担になった時点で訪問診療の利用をお勧めしています。柏市は地域包括支援センターの整備が進んでいて、訪問診療や訪問看護などの施設が充実している地域でもあります。これら施設と連携をとって在宅療養を支援します。

心の悩みは緩和ケア認定看護師がお話を伺います。患者さんご自身の生活の質向上と、ご家族との大切な時間を安心して過ごしていただけるようお手伝いいたします。



関谷 雄一 医師

緩和ケアの
ご相談は

予約窓口は医療相談室
04-7137-3003
※対応時間は9時～16時30分
(日曜、祝日、年末年始は除く)

【外来の時間】

火・木曜日の13時～16時、土曜日9時30分～12時
※学会などで変更になる場合がございます。事前にご確認ください。

人類は、古代エジプト時代から病気の治療に^{ひる} 蛭を用いてきた歴史があります。

我が国では、平安時代に編纂され現存する最古の医学全書である「医心方」の中に、脚病、癰疽、腫瘤（古代の病名）に生きた水蛭に毒血を吸わせる治療法が記されています。痔の治療法に蛭を用いることは記述されていませんが、江戸時代には、実際に使用されていた記録があります。

ところで、現代日本でも、医療用ヒルが使われているそうです。ヒルは、抗凝固物質ヒルディンを分泌し、再接着指や再建外科手術後の皮弁鬱血改善に有効であり。血管拡張作用、局所麻酔作用とともに、組織の微小血管の循環に寄与するとされています。

痔疾患では世界的に最も有名なナポレオンの痔の治療法として、主にヒルに血を吸わせたりしていたと伝わっていますが、日本での記録を見てみましょう。

江戸時代の文化文政期の漢学者である松崎^{こうどう} 懋堂（1771-1844）は、長年に亘る痔疾に苦み、彼の日記「懋堂日曆」に、痔痛や治療など関し、多くの記述があります。その中に、蛭を用いて治療した箇所があります。原文のまま一部引用します。

「懋堂日曆」より

天保三年五月一日

余はまさに治を廃し、温敷して旧套を守らんとす。而るに静海は云う、治はずでに半に及ぶ、ただこれを忍べば、全癒すること遠からじと。強いて再び^{ひる} 蛭二十九頭を点じて^つ 唾わしむ。おわって少休すれば、^{ひる} 唾

の血は^{りり} 淋漓としてやまず。哺後、^{ひる} 蛭葉を以てこれを^つ 拭すること半時、また水を濯ぐ。血止まる。道生は静海を助けて脱せるを収む。苦しみ言うべからず。半ば線牡を収め、痔痛は小減す。膏葉を点じ、布半幅（長七尺）を以て腰骨を囲ること一匝、後余を以て軟膏上を過ぎ前布に係け、前余を以て交骨上に相結ぶ。昏、静海去る。一睡すれば疼^つ 処の白液は婦人の帯下の如し。布もて拭い、また睡る。近日、この況あることなし。

天保三年五月十八日

静海来り痔疾を診して云う、老血すでに^つ 竭く、^{ひる} 蛭を上すを用いずと。ただ、綿を以て^つ 蜜陀を浸し、これを^つ 擁するに^つ 辺膏を以てす。春水来り、浴湯のことを語る。

天保六年五月四日

静海来り、痔疾を診す。^{ひる} 蛭をつけて^つ 血を^つ 唾わしむ。凡そ五頭、血は五勺ばかりと云う。

参考文献：日本口腔外科学会雑誌「遊離皮弁の鬱血に対するmedical leech（医療用ヒル）の有効性に関する臨床的検討」 Dec.2020

藤原書店「医心方」事始 榎佐知子著

文春文庫「ナポレオン・ミステリー」 倉田保雄著

平凡社「東洋文庫169 懋堂日曆〔全6巻〕」 山田琢訳注

上記引用文は、一部原文表記と異なる部分があります。

さらに詳しくは、「痔プロドットコム」（辻仲病院監修）の「痔の散歩道～痔という文化～」を参照してください。（IT.）

（社）日本糀文化協会の



茄子としめじの トマト味噌炒め



トマトと味噌はどちらも栄養価が高く旨味も豊富なので、組み合わせると常備しておく便利です。

トマトの栄養：トマトは低カロリーで、抗酸化作用を持つリコピンやβ-カロテンを含んでいます。

味噌の栄養：大豆が本来持つ栄養素に、発酵の過程でアミノ酸、ビタミン類、塩分、ミネラル、カリウムなどが多量に生成されます。整腸作用、コレステロールの抑制、胃潰瘍予防効果、消化促進、脳卒中の予防、脳の新陳代謝の促進などがあります。

【材料】2人分

- 茄子1本 ● しめじ1/2袋 ● にんにく1片 ● サラダ油大2 ● トマト味噌大2 ● 塩・胡椒少々 ● 大葉5枚（みょうがも美味しい） ● 白すり胡麻少々

【作り方】

- ① 茄子は食べやすい大きさに切る。しめじはほぐす。にんにくはみじん切りにする。大葉は千切りにする。
- ② フライパンに油を熱し、茄子を焼いたら一度取り出す。
- ③ ②のフライパンににんにくを入れ香りが出るまで炒める。しめじと茄子を加えて炒める。
- ④ トマト味噌を、全体に混ぜ合わせる。塩・胡椒で味をととのえる。
- ⑤ 器に盛り大葉をのせて白ごまをふる。

【トマト味噌の材料と作り方】

- トマト缶200g ● 味噌60g
- ① トマト缶と味噌を小鍋に入れ、水分を飛ばしながらとろみがつくまで煮る。
- ② 保存容器に入れ、粗熱を取ったら冷蔵庫で保存する。



（社）日本糀文化協会
代表理事 大瀬由生子

辻仲病院柏の葉 Information

つくばクリニックに 森田洋平新院長が就任

5月より森田洋平 新院長がつくばクリニックに就任しました。名称も新たに「辻仲つくば胃と大腸内視鏡・肛門外科クリニック」となります。

当院では、安全で快適な医療を目指すための「痛みに配慮した検査」を行っております。内視鏡検査では、大腸や肛門などの消化器の不調を早期発見・治療し、みなさんの健康をサポートします。24時間 WEB 予約システムやオンライン診療の整備により、利便性にも配慮しております。また、法人全体と連携し、専門性の高い肛門診療を心がけています。つくばおよび茨城県南の方が、胃腸の症状や肛門の症状について、気軽に受診できるクリニックづくりを目指してまいります。

病院理念
病院基本方針
「5SCIのモットー」

国際水準の専門的医療技術と地域社会から信頼される医療サービスの提供に努めます。
Safety 医療の安全・人権の保護 Smile 優しく微笑む Sincerity 真心を込めて Speed すばやく対応
Satisfaction お役にたって喜ばれる Cleanliness 清潔に、快適に Internationality 国際水準の医療を提供